（様式１）

県立水戸農業高等学校【総合的な探究の時間の全体計画】（令和７年度）

総合的な探究の時間の第１の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

心身の健全な発達を図り、自主性・実践力に富む社会の有為な形成者としての人格の完成を目指し、農業経営者・関連産業技術者を育成する。

一　知・徳・体を身に付けた社会に有為な人材を育成する学校
一　生徒一人一人の進路希望の実現を支援する学校
一　魅力ある農業教育を実践し、将来の農業経営者・関連産業技術者を育成する学校
一　体験学習等を通して、コミュニケーション能力を磨くことができる学校
一　地域社会の関係機関・団体・住民等と連携するとともに、それらに開かれた学校

各学校で定める目標と育成する資質・能力

・地域社会の役割の一端を担える力を備え、社会の変化に柔軟に対応し、主体的に社会に関わることができる能力。
・生徒一人一人の多様な進路希望や学習のニーズに合わせた教育活動において、体験的な学びから知識・技術を確実に身に付け、就職や進学を実現できる能力。
・学科の特色に応じた専門教育に取り組む姿勢があり、チャレンジ精神旺盛で、夢の実現に向けて自ら主体的に考え行動できる能力。

総合的な探究の時間の学習評価

（１）（知識・技能）
各教科で学んだ内容や教科の特質に応じた見方・考え方をはたらかせ、課題や現象を多面的に捉える力を身に付けたか。
（２）（思考力・判断力・表現力）
探究活動の過程や日常生活での経験をふまえて、仮説を立てたり、検証方法を考えたり、結果を科学的に考察したりする力を身に付けたか。
（３）（学びに向かう力、人間性等）
生徒が発見した課題について、自分事として捉え、課題の解決を通してより良い社会を作ろうとする意識や態度を身に付けたか。

生徒の実態

・学習意欲、理解力に大きな開きがある。
・進路選択が多種多様である。
・中学校時に不登校等であった。
・特別な支援を必要とする生徒が在籍している。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

・自己肯定感を高める指導
「注目する」「共感する」「認める」「褒める」を効果的に用いる。
・自己決定を支援する指導
学校のこと、生活のことを自分で管理できる。自分の職業や将来の生活を自分で決めることができるように問いかける。
・個別の指導計画による指導と支援。

目指す生徒の姿

・基本的生活習慣が確立された生徒
・他者や地域社会に積極的に関わり、協働して課題解決に臨むことができる生徒
・自分の意見を言語化し、他者に伝えることができる生徒

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力

１学年

・人との接し方
(1)道徳・公共及び農業での実習で学んだ知識及び技能が相互に関連付けられ、課題を多面的に捉える力を身に付ける。
(2)他者の考えを理解し、自分の考えを他者に伝えられる力を身に付ける。
(3)自己の行動について振り返り、基本的な生活習慣や他者に対する思いやりなどの課題を意識し、改善しようとする態度を身に付ける。
・地域の人をもてなす
(1)学校祭を多面的な視点から向上させようとする態度を身に付ける。
(2)学校祭の結果について科学的に考察する力を身に付ける。
(3)学校祭を振り返り、自己の行動を改善しようとする態度を身に付ける。
・自己の在り方を考える　基本的生活習慣の確立
(1)社会人としての視点から自己の課題を捉える力を身に付ける。
(2)職業体験の経験をふまえて、自己を分析する力を身に付ける。
(3)自己の特性を理解し、社会に貢献しようとする姿勢を身に付ける。

３学年（課題研究）

農業に関する諸課題について、実践的・体験的な学習活動をとおして、体系的・系統的に理解し、科学的な根拠に基づいて創造的な解決策を見いだし、主体的かつ協働的取り組む姿勢を身に付ける。

学習活動、指導方法等

学習活動
・１年生は他者との関わりを通して、自分について考えるともにマナーや基本的生活習慣を身に付けることを探究課題として設定する。
・課題研究では、調査、実験、現場実習、現場見学、など体験的な学習方法を積極的に取り入れて、理解の深化に努める。

指導方法
・アクティブラーニングの視点で基本的な知識および技能を定着させる。
・本校が育てようとする資質・能力が身に付いているか、担当者間での共有を行う。
・本校の農業専門、寮教育、広大な敷地や施設設備、多くの教職員など、物的、人的な教育環境を最大限に活用し、各教科・科目を横断的に取り入れた、多様な学習活動を展開する。
・教員と生徒の協働的な活動を行い、相互理解を深めるとともに、探究活動を行うために必要な手法を身に付けさせる。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

・授業担当者会議（毎月１回）・・・授業担当者間で指導方法や評価観点、進捗状況について適宜指導を共有する。
・就業体験（インターンシップ）との連携・・・地域企業、保育園・幼稚園・特別支援学校との交流活動を通じて、個々の変化を共有する。
・総合的な探究の時間の研修会・・・新規採用者、転入者対象の研修を実施し、本校の目標や育てようとする資質・能力について研修する。
・JA 直売所、JA 職員や近隣プロ農家、専門の有資格者など外部指導者との積極的な連携によって、専門知識や技術の指導を充実させる。
・大学や県立農業大学校や専門学校など、上級学校との連携を図り、高度な知識、技術の指導体制を充実させる。